

編集後記

万博(愛・地球博)に行ってきました。生憎の雨天、時折激しく降る中での見学でしたが、朝から晩まで結構楽しめました。会場に着いてすぐ、長久手日本館に1時間並んで話題の「360度全天球型映像システム」を体験。映像体感型のシステムは見慣れている方だと思いましたが、360度の映像に囲まれるというのは、なかなか新鮮でした。その他、いくつかパビリオンを見学しましたが、映像技術を駆使した企画が多いように感じました。万博というと何か未来を感じさせるものというイメージがあり、またメインテーマが「自然の叡智」で、それ自体が結構難しいテーマですから、仮想現実的な映像というのはお手軽な表現方法ということかなと勝手に思ったりしました。最近、とかく視覚情報が強調され、何でもバーチャルな表現がもてはやされますが、そんな中でちょっと意外な感動があったのは中米共同館です。パビリオンの中には半ば物産展化しているものもあり、このパビリオンもそんな匂いがします

が、入口すぐに展示してあった「砂」が仮想現実には食傷ぎみの自分に意外な効果を与えてくれました。中米各国の砂(特にニカラグアの砂!)を握ると何ともさらさらで、こんな砂浜を裸足で歩きたいと思わず言いたくなる心地よさがありました。(ちょっと疲れ気味なのかもしれません。)そこで気がついたことは、手にとって触りたいというのは人間の自然な欲求であり、視覚でいくら騙しても決して満足はできないということです。確かに最新映像技術はすごいのですが、しばらくたつと印象が薄れ、それに対して「砂」は強く残っています。職業柄もあってか(一応、理論家です)、最近、物にふれる機会が少なくなったような気がします。子どもの頃を思い出し、花でも虫でも蛇でも何でもとにかくさわってみたいという懐かしい感覚を思い出しました。映像(バーチャル)は見ていて楽しいですし、時には本当に体感しているように錯覚することもあります。しかし、何でも手でふれ、いじること(つまりリアル)をあらためてしみじみ考えた万博見学でした。(菅野 龍太郎)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副 会 長	山中 龍彦 藤原 正巳	常務理事	岡村 昇一(総務委員長)
理 事	今井 剛 奥野 健二 佐藤浩之助 畠山 力三(企画委員長) 森 雅博		榎戸 武揚(広報委員長) 尾崎 章(財務委員長) 田中 和夫(プログラム委員長) 堀岡 一彦(広告委員長) 吉田 善章(編集委員長) 藤山 寛		岡野 邦彦(出版委員長) 際本 泰士 二宮 博正 松岡 啓介
監 事	長谷川 満				

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 吉田善章(東大新領域)

エディター 岡子秀樹(九大)、関 昌弘(原研)、田中雅慶(核融合研)、西村博明(阪大)、福山 淳(京大)、藤山 寛(長崎大)

編集委員 荒巻光利(名大)、飯塚 哲(東北大)、岩尾 徹(武蔵工大)岩切宏友(九大応力研)、岩前 敦(京大院工)、上田良夫(阪大院工)、江角直道(長野高専)、片沼伊佐夫(筑波大プラズマ)、門 信一郎(東大高温プラズマ)、菅野龍太郎(核融合研)、近藤公伯(阪大院工)、榎田 創(産総研)、重森啓介(阪大レーザー研)、篠原俊二郎(九大院総理工)、鈴木 哲(原研那珂)、妹尾和威(核融合研)、高杉恵一(日大量科研)、高橋栄一(産総研)、永岡賢一(核融合研)、服部邦彦(東北大院工)、林 康明(京都工繊大)、檜垣浩之(筑波大プラズマ)、増崎 貴(核融合研)、南 貴司(核融合研)、山内有二(北大院工)、山本 靖(京大エネ理工研)、山本 巧(原研那珂)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第81巻第8号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: jspf@nifs.ac.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/>

印刷 株式会社荒川印刷

2005年(平成17年)8月25日

定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月、第1金曜日に開かれています。但し、第1金曜日が休日あるいは5日以降の場合はその前週の金曜日に開かれます。